

タブレット端末を活用した

「複線型授業」リーフレット



はじめに

文部科学省は、令和6年9月に「今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会」の論点整理において、GIGAスクール構想の下、デジタル学習基盤を効果的に活用している学校では、多様な教材の活用や思考過程の可視化などにより、個別最適な学びと協働的な学びが促進されていることを示しました。

港区教育委員会では、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるために、タブレット端末を活用した「複線型授業」を推進してまいります。

本リーフレットは、「複線型授業」のイメージ、実施に向けたステップなどを示したものです。各学校において、「複線型授業」を実践する際に、参考としてください。



令和7年4月
港区教育委員会事務局学校教育部先端教育担当



1

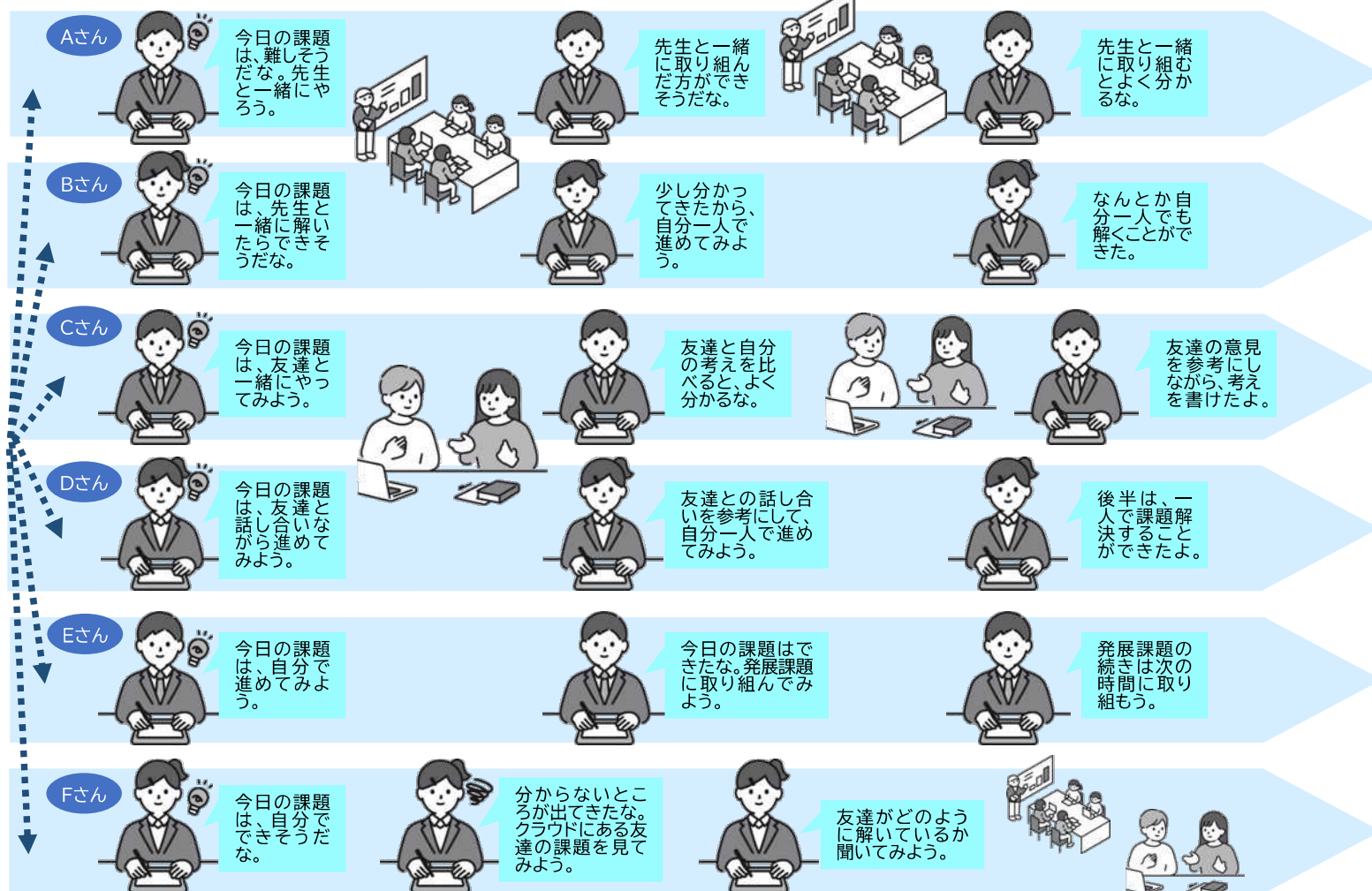
「複線型授業」のイメージ

学ぶ内容や子どもたちの実態等に応じて柔軟に取り組んでいくことが大切です。

導入

展開

まとめ



子どもたち一人ひとりが、学び方を決めて学習を進める。
子どもたちは、友達の取組状況を見たり、相談したりしながら、課題に取り組む。

2

「複線型授業」における学びの姿

～学習形態～



先生と
一緒に学ぶ

友達と
一緒に学ぶ

一人で
学ぶ

「一人で」、「友達と」、「先生と」など、教室の中に多様な学び方をする子どもたちがいることが「複線型授業」の大きな特徴の一つです。

学び方は、子どもたちが自ら決定していきますが、教師の適切な支援は欠かすことができません。

3

「複線型授業」における学びの姿

～学習材～

子どもたちが学習課題を解決するために、「学習資料」や「学習の場」（学習材）を自ら選びます。教師は、子どもたちに合った学習材を用意します。

社会 6年「戦国の世から天下統一へ」 「学習資料」が複線型

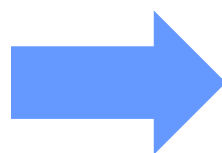
武将たちは、どのように
天下統一を目指したのだろう。



当時の世の中の様子から！

外国との関わりから！

政策、取組から！



子どもたちが調べ
たい内容について、
自ら「学習資料」
を選び、学習しま
す。

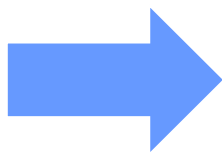


体育 4年「跳び箱運動」 「学習の場」が複線型

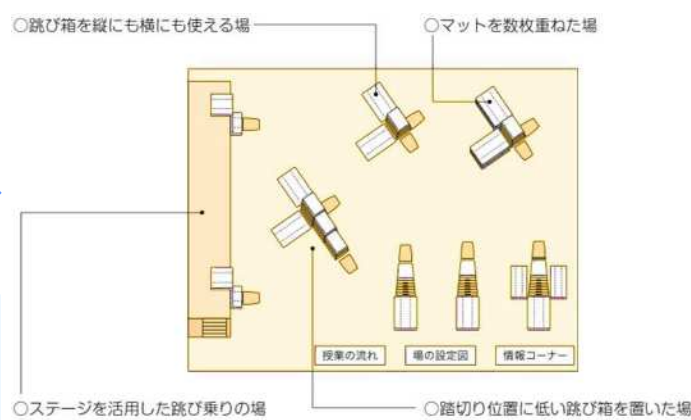
開脚跳びに
挑戦しよう！



かかえ込み跳びに
挑戦しよう！



子どもたちが挑戦
したい技について、
自ら「学習の場」
を選び、学習しま
す。



「小学校体育（運動領域）指導の手引～楽しく身に付く体育の授業～」
（スポーツ庁・令和4年）

4

「複線型授業」実施に向けたステップ

Step 1

学び方を選択する 場面を設定！

「一人で」、「友達と」、「先生と」など、一人ひとりの子どもたちが、主体的に学習できるよう、学び方を選択する場面を授業に取り入れていきましょう。

子どもたちの学び方を想定するとともに、一人ひとりが、適切な学び方を選択できているか見取り、指導・支援することが大切です。



▲多様な学び方で展開されている授業

Step 2

学習状況を 共有！

課題配信機能を活用したり、データをクラウドに保存したりするなどして、子どもたち同士・教師がいつでも学習状況を共有できるようにしましょう。

子どもたちが友達の学習をいつでも参照できる環境を整えるとともに、学習状況をリアルタイムで把握し、課題解決できるようにすることが大切です。



▲課題をクラウドで共有している授業

Step 3

学びの様子を 一覧に！

子どもたちが単元全体の見通しをもち、主体的に学ぶことができるようにしていきましょう。

スプレッドシート等を活用し、課題や学習進捗、振り返りを一覧にし、すぐに参照できるようにすることが大切です。



▲スプレッドシートを活用し、学びの様子を一覧にしている授業



※【参考】
令和6年度JAET全国大会会場校において作成した一覧表

5

「複線型授業」に関わるQ & A

Q：子どもたちの学び方を想定するためにはどうすればよいでしょうか。

前時間の学習の様子や、振り返り等をもとに、どの程度子どもたちに学習の進め方を委ねることができるか、想定するとよいでしょう。「自分で進められる子ども」、「教師の支援が必要な子ども」を想定しておくことで、適切な支援を行うことができます。

Q：クラウドを使うのは何のためでしょうか。

子どもたちの学習状況を把握するとともに、子どもたち同士が必要なときに友達の課題を参照できるようにするためです。リンクを共有することで、すぐにクラウド上のデータを共有することができます。

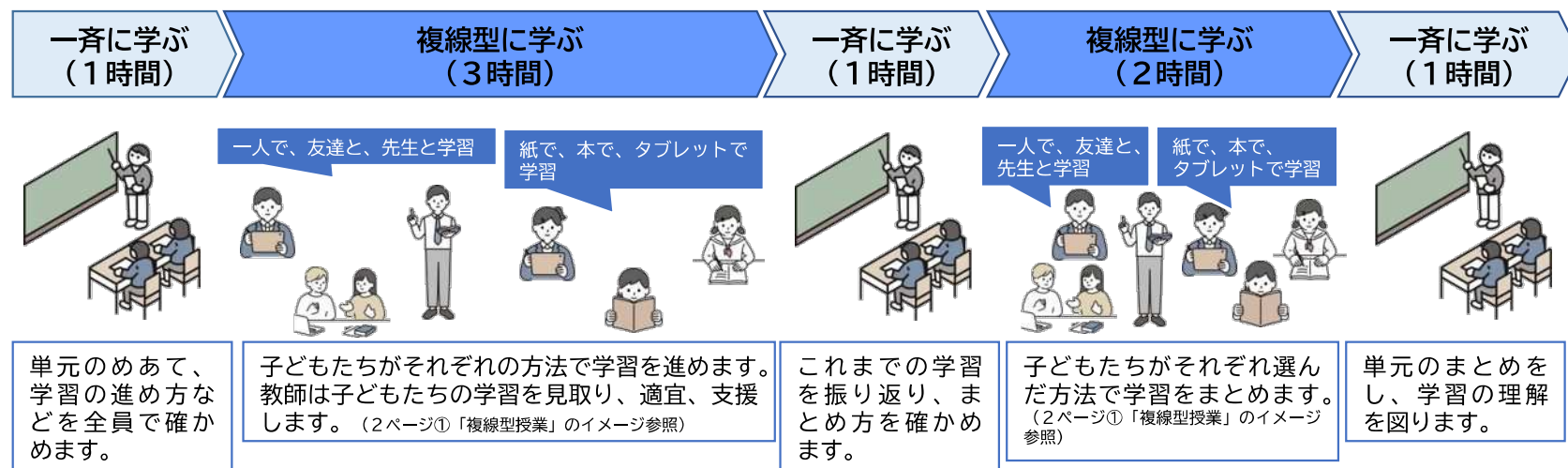
Q：すべての授業で「複線型授業」を実施するのでしょうか。

学習内容や子どもたちの実態に応じて、柔軟に取り組んでいくようにしましょう。単元の中の一部の時間で実施する、1回の授業のみで行うなど、様々な方法が考えられます。

以下に、具体的を示します。

単元の中の一部の時間で実施する例

※8時間扱いの例です。



1回の授業のみで実施する例

※小学校45分授業の例です。

